

令和6年度第2回運営協議会開催報告

報告年月日 令和7年2月3日(月)

1. 会議名	令和6年度第2回環境学習交流センター／岩手県地球温暖化防止活動推進センター運営協議会
2. 日時	令和7年2月1日(土) 13:30～15:30
3. 会場	アイーナ5階 ミーティングルーム
4. 参加者	渋谷 晃太郎(代表理事)、森 一夫(事務局長)、櫻井 則彰(業務部長)、齊藤 富美子(スタッフ) 委員：中島 清隆氏、佐々木 洋介氏、松尾 亨氏、徳谷 喜久子氏、森 敦子氏 オブザーバー：岩手県 吉田 幸司氏、阿部 円香氏
5. 議事	環境学習交流センター／地球温暖化防止活動推進センターの業務実施状況説明①②と今後の両センター運営に向けて
	資料添付 写真添付 次第 1. 開会 2. 代表理事挨拶 3. 議事 1)両センター業務実施状況説明 2)今後の両センター運営に向けて 4. その他 5. 閉会 【実施風景】  ○評価の実施方法の説明 岩手県環境生活部環境生活企画室 吉田幸司氏 ・令和7年4月から11月末までの実施状況、活動状況の評価をお願いする。 3.議事 1)両センター業務実施状況説明 ・規約により中島清隆委員を議長に運営協議会を開始。 ・森事務局長が配布資料を用いて両センター(環境学習交流センター、岩手県地球温暖化防止活動推進センター)の活動状況、11月末までの進捗、今年度の見通しなどを説明。概ね計画に従い事業は順調に推移している。 ・森事務局長説明の後、各委員からのご質問、ご意見。 ・中島清隆委員 環境学習交流センターの利用者数が年度途中から目標値41,000人から45,000人に上乗せされた経緯と背景は何か。 ・県環境企画室吉田幸司氏 県が定めた県民計画の令和4年時が、41,000人、コロナ禍以前が45,000人で、達成し

ていた。コロナ禍で 30,000 人ほどに落ち込んだが、コロナ禍も一段落、第 5 類に以降したこともあり、県整体的で目標を改めて再設定した。県の他の分野の指標も同じように以前の状態に戻している。

・森敦子委員

図書の件ですが、図書館にも本はあるので、環境学習交流センターの図書は貸出をやめて閲覧のみにすれば、スタッフの業務も軽減されるのではないかと。積み木コーナーで子どもさんが遊んでいる間、お母さんが図書を閲覧しているのを見かける。図書閲覧コーナーを設け、閲覧に力を入れれば来館者も増えるのではないかと。

・森事務局長

環境学習交流センターの利用者数は、環境学習交流センター来館者だけでなく、出張環境学習会、アドバイザー派遣などさまざまなものを合わせている。図書館にないよい図書も置いてあり環境学習交流センターの図書は好評である。国際交流センターも同様に特化した図書を置いている。

・渋谷晃太郎センター長

環境学習交流センターも展示品が増えて狭くなっている。以前は絵本コーナーもあったが、今後は、ご指摘の点を踏まえ、図書コーナーの設置を検討していきたい。

・徳谷喜久子委員

一関ヒロセ電機が事業説明のところで紹介されたが、太陽光発電を載せたカーポートを設置している。もっとこのような事例を紹介した方がよい。一関市役所がようやく屋根に太陽光を乗せる工事を始めた。市職員は広範囲から通勤しており CO2 の発生量も多い。こうした動きが広がるとよい。

エコチェックアンケートは紙媒体と、WEB で呼びかけるのは、どちらが多いのか。また同じ内容の取り組みでよいのか。

・森事務局長

紙媒体と、WEB では WEB は少ない。

・中島清隆委員

大学でも紙媒体のアンケート、WEB でのアンケートを実施すると WEB は実施率が下がる。

・松尾亨委員

エコチェックアンケートの若い人の取り組みが少ない。

・渋谷晃太郎センター長

エコチェックは毎月 1 日をエコチェックアンケートの日にして取り組んでもらっている。

・県環境企画室阿部円香氏

前回の運営協議会で出された意見を参考にエコチェックアンケートの日を設定した。夏と冬の省エネキャンペーンと連動させ PR している。ステップ 1、ステップ 2 を設け、WEB 参加を、より促している状況。

・徳谷喜久子委員

環境学習広報車ですが、次の更新は、ぜひ EV 車の検討をお願いしたい。

・県環境企画室吉田幸司氏

出張環境学習会で出かける際に大量の荷物を積める車種を探している。令和 9 年度の購入に向け検討中である。大量の荷物が積載でき、長距離充電なしで走行可能な車種を、次回令和 9 年の車検に向け検討中である。

・県環境企画室阿部円香氏

EV への買い替えは県でも進めている。環境学習広報車は効率を考え検討している。

・佐々木洋介委員

先程のアンケート回収の件は、自分たちのイベントでは QR コードを使用しペーパーレス化を図っている。皆さん方、同年代の方もスマホになりつつある。データがそのまま入るので、集計もしやすい。Google フォームを利用すればよい。あと、利用者数ですが、前回は聞いたかもしれないが、このような他県の同じ施設との比較はどうか。

岩手県と他県では、人口の割合も変わってくるかと思いますが、岩手県は他の県に比べてどれくらいか。こういう取り組みを頑張ってますとか、他と比べてどうなのかのようなデータはあるのですか。

- ・森事務局長
環境学習交流センターはあるが、当方のような施設はない。東京、関西から来た方が驚かれる。盛岡駅から近い良好な場所で訪れやすい。
- ・森敦子委員
もっと PR すればよい。
- ・佐々木洋介委員
環境アドバイザーの仕組みは他県にあるのですか。
- ・森事務局長
環境アドバイザーの仕組みはあるが、施設としてはないです。
- ・松尾亨委員
過去の水生生物調査のデータはどうか。30~40年比較すれば、地球環境問題を考える上でよいデータになると思う。年間120回の調査を実施しているので。
- ・吉田幸司氏
調査は、昭和57年頃に始まり、続いている。全国の実施数では、岐阜県に続き第2位、県毎の経過は、あまり見ない。
- ・渋谷晃太郎センター長
県内の河川は多くが、きれいな水である。学校の統廃合が進み水生生物調査の実施数は減少傾向にある。
- ・森敦子委員
もっと PR すべき。県内の人は知らないのは、もったない。続けていくことを PR すれば、統廃合があっても、意義がある。
データを積み重ねていけば貴重なものになる。何かあった時に、私たちの感覚が合っていたのか材料になる。
- ・松尾亨委員
県北では統廃合が進み、毎年3~4校がなくなる。
- ・徳谷喜久子委員
絶滅危惧種もいることは貴重。
- ・吉田幸司氏
コモチカワツボも侵入している。
総合学習は、学校の時間が限られる中、減少している。防災教育とか伝統芸能の教育との奪い合いもある。
- ・森敦子委員
子供時代、自然に触れてる人ほど、大人になってからの意識が違う。その時間が減らされるのは、問題がある。その意味も含め、今の状態だとまだ緑が多いので、大丈夫なんじゃないかと思ってる人のほうが大半で、それを、分かかってて食い止めていかないといけない。
- ・松尾亨委員
昆虫の部分で言えば、単純に綺麗な水に棲んでいますけど、魚類の調査をしていけば水温が上がっているの、かなり変わってくると思う。
- ・徳谷喜久子委員
長期間の財産を大事にしていけば、人口減少も少し緩やかになるかもしれない。
- ・森敦子委員
興味のある人、優秀な人が岩手県に集まってくる可能性もある。
- ・中島清隆委員
今後の両センターの運営に向けてご意見はいかがですか。
- ・森敦子委員
PRの仕方が重要。このタイミングで PR すればよい。改めて説明すれば、反応がある

	<p>のではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森事務局長 中間支援として企業 120 を廻ると、多くが環境学習交流センターを知らない。センターのプログラムが何かを知らない。温暖化防止活動センターも同じ、推進員の派遣制度があることも知らない。脱炭素は何かもわからない。エネルギーコストを削減して、収益に結び付ける提案をしながら、時間はかかるかもしれないが、中間支援センターとしてセンター活用を呼びかけている。来年度への効果に、淡い期待をかけている。 ・森敦子委員 動物公園も冬季間オープンしているが、あまり知られていない。本当に誰も知らないという認識を持って、今後 PR に努める必要がある。 ・中島清隆委員 貴重なご意見頂きありがとうございました。今後の両センターの運営に向けて、県当局とセンター受託団体である環境パートナーシップいわては、運営に活かしていくようお願いいたします。パンデミック前、後で状況も変化している。新しい活動の展開も必要。渋谷センター長が言われたように、環境問題はどんどん深刻化している。その中で両センターの存在意義、価値は、益々求められている。どのようにセンターを PR するかは難しい課題である。SNS で言えば、良いことをしているよりも、衝撃的なものが伝わりやすい。それによる分断もある。よいものをどう PR するかが課題。やはり地道な活動、組み合わせ、適切なコラボレーションが必要である。自分たちの意義をどうプロデュースするかが求められている。 本日はありがとうございました。 <p>5. 閉会</p>
6. 特記事項	特になし
7. 概要・所感	<p>【開催報告】</p> <p>令和 6 年度第 2 回運営協議会が運営委員 5 名出席、オブザーバーとして岩手県より 2 名の方にご出席いただき開催されました。</p> <p>本日の運営協議会は、特定非営利活動法人環境パートナーシップいわてが運営する環境学習交流センター及び岩手県地球温暖化防止活動推進センターの令和 6 年度 11 月末までの事業実績を評価していただくための会です。令和 6 年度 11 月末までの事業実施報告と今後の両センターの運営に向けて委員の皆様から頂いたご意見を踏まえ、令和 7 年度の事業実施計画を進めてまいります。</p> <p>令和 6 年度の活動も残すところ 3 か月となりましたが、委員の皆様から頂いたご意見を今後の活動に反映させ、市県民の方々の興味関心行動変容へとつながるよう活動してまいります。</p>